



小山中だより

第1号

令和7年5月14日発行

小山中で過ごした1か月で驚いたこと

その1

学校長 片平 真

4月30日から今年初めてのハロフェス（あいさつ運動）が行われました。私は、去年11月の「さがみはら生徒会長会議」で小山中のハロフェスの取り組みは発表されていたので、音楽を流したり、風船でアーチを作ったりしていることは知っていましたが、目の当たりにしたのは初めてでした。

色鮮やかな風船アーチや「オニヤマ君」のお出迎えも新鮮でしたが、何よりも素晴らしいなと感心したことは、取り組んでいる生徒会本部をはじめとしたリーダーの生徒



たちの笑顔でした。明るい雰囲気の中で楽しそうにあいさつ運動に取り組む姿は、本当に自分たちの手でよりよい小山中学校を創っていこうとする姿勢が表れていました。アーチをくぐって登校する生徒たちの顔も自然に笑顔になっているように思いました。ハロフェスの実施されていない日でも、多くの生徒が登下校時や校内で明るく、さわやかにあいさつをしてくれるのもこのような取り組みの成果ですね。

その2

4月は地域の方からお褒めの連絡を受けることが多かったです。1か月間で3回もお褒めの連絡をいただきました。そのすべては、登下校時でのできごとで、困っている人に声をかけたり、手助けをしたりというものでした。私のこれまでの教員生活で、苦情やお叱りの連絡をいただくことは多々ありましたが、なかなかお褒めの連絡はいただくことはありませんでした。実際に一市民として自分が生活する中でも街中で「えらいな」「素晴らしいな」と感じる中高生と出会うことがあっても、その場でその生徒にお礼の声掛けをするくらいで、わざわざ学校にまで連絡することはほとんどありませんから、小山中生が地域の中で様々な部分で活躍していることは実際には3回よりも、もっともっといっぱいあるのだろうと思っています。

中央階段の1階と2階の間に杉焼で作ったと思われる「世界平和」の文字に恥じない行動のできる小山中生はとても素敵な集団だな、様々な人の弱みに寄り添うことのできる人が全世界に広がることで本当に世界平和は実現できるのだろなと思いました。

校長自己紹介

4月1日付けで小山中学校長に着任いたしました片平真です。小山中学校は2度目の着任になります。1回目は大学を卒業した直後の昭和62年4月から5年間お世話になりました。昭和62年度は第5回の入学式でしたので、まだ真新しい校舎、教室で新しい学校を創っていこうとする気持ちが生徒にも職員にもあふれていました。そのころから比べると校舎や教室はくたびれてきた感がありますが、それらの環境を清潔に保とうとする姿勢や活気のあるあいさつには、開校当時と同様に素晴らしい学校を創ろうとする生徒、職員の意欲を感じ、これが小山中学校が四十数年間で積み重ねてきた伝統の重みなのだろうと身の引き締まる思いです。

初めて教員となった私を育てていただいた小山中学校に教員生活最後(多分)に戻ってくることができたこと、とても嬉しく思います。初任校の小山中を離れて市内中学校6校を巡り得てきた経験をこれからの小山中の学校経営に活かしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

<令和7年度教職員一覧>

生徒に配付したプリントは、ここに教職員の
名前が掲載されています。